

Connect No.10

シニア合同例会



9月11日にアートクレフクラブでシニア合同例会が開会されました。

例会前には、福岡ブロック協議会から9月30日に開催されるFUKUOKAコンファレンスのキャラバンに来ていただきました。

JCIひびきから井上君、梅田君、川口君も福岡ブロック協議会の地域経済活性化委員会に出向しており、担当フォーラム、ビジネス交流会の説明をしていただきました。



次年度理事長予定者の盛田君がシニアの先輩方に向けての挨拶を行い、次年度の理事予定者もシニアの先輩方に顔を出しました。また、黒木五十鈴君（旧姓豊岡）が8月にご結婚されたことを祝い、メンバーから心ばかりのお祝いをさせていただきました。例会の懇親会では、コロナ禍で数年間交流ができなかった先輩方と久々に歓談することができました。新しく入会したメンバーもいくつかおり、皆で話に花を咲かせていました。シニアの先輩方も我々メンバーの話に耳を傾けてくださり、ますます団結が強まった例会になりました。



挑戦しよう！ ひびきっず！



9月23～24日に、夜須高原青少年自然の家で、青少年育成委員会による宿泊事業「挑戦しよう！ひびきっず！」が行われました。近年、自己肯定感が低下し、夢を抱けない子供たちが増えつつある中、青少年育成委員会は自己肯定感を持ってもらうために、新しい目標を持ってもらうことを企画し、事業を構築しました。

初日は、焼杉コースターや野外炊飯などを行い、皆で協力して自分で考えて作ることを体験しました。1日目の最後には、ナイトウォークを行い、事前に保護者の方から預かった手紙を獲得するという企画がありました。

2日目には、仲良くなった班で登山をし、協力し合って頂上を目指しました。最後には、将来の夢や挑戦したいことについて多くの子供たちからの言葉が聞かれ、この事業を通じて何かを得たことを感じました。

この事業では、福岡教育大学の方々がボランティアとして参加し、メンバーと一緒に多くの活動を行ってくれました。真剣に取り組んで協力してくれたこと、本当に助かりました。





青少年事業で看護師として参加していただいた方の中には、十数年前にひびきの先輩方が実施したサマースクールに参加していた方もいらっしゃいました。その方は大人になり、今度は参加者を見守る立場でこの事業に参加しました。

最後に、来年も同様の募集をした場合、どうしますか？と子供たちに尋ねたところ、多くの子供たちが再び参加したいと答えてくれました。私たちJCIひびきのメンバーも、この事業を通じて多くの学びを得ることができ、非常に有益なものとなりました。



FUKUOKA コンファレンス



9月30日にアイランドアイ会場にてFUKUOKAコンファレンスが開催されました。
福岡ブロック協議会の地域経済活性化委員会に出向しております井上君、梅田君、川口君も事業の設営をしており、そこで開かれるビジネス交流会ではJCIひびきのメンバーも数名参加しておりました。

10月度スケジュール

| | |
|--------|----------------------|
| 5日 | ……………常任理事会 |
| 6～8日 | ……………全国大会 東京 |
| 10日 | ……………10月度例会 |
| 11～12日 | ……………日本組織G全体MTGinひびき |
| 12日 | ……………旧5地区例会 宗像JC |
| 16日 | ……………予算・議案会議 |
| 17日 | ……………J C I公認プログラム |
| 20日 | ……………第一エリア会議 |
| 25日 | ……………理事会 |
| 26日 | ……………会員会議所 |
| 29日 | ……………アカデミー閉校式 |
| 30日 | ……………第一回役員会議 |

| | |
|--------|-------------|
| 11月 | |
| 6日 | ……………常任理事会 |
| 10日 | ……………11月度例会 |
| 14～18日 | ……………世界会議 |

次年度スケジュール

| | |
|-----|-----------------|
| 9日 | ……………予定者常任理事会 |
| 18日 | ……………予定者常任理事会 |
| 23日 | ……………予定者予算・議案会議 |
| 27日 | ……………予定者理事会 |



一言メモ JCバッジ

右側にある地球儀は、国連マークとして知られているものであり、JCバッジに表されています。

JCメンバーの方々は、このことを既にご存知の方も多いことでしょう。JCは、国連及び国連関連機関以外で唯一、国連マークの使用が許されている組織です。この由来は、第二次世界大戦終結直前のエピソードに遡ります。当時、アメリカ合衆国政府が国連創設のために尽力し、設立準備委員会のメンバーであったロックフェラー・ジュニアは、後に合衆国副大統領となりました。彼は、土地を合衆国に寄付し、国連をニューヨークの現在地に誘致することに成功しました。このようにして、JCは国連関連機関以外で唯一、国連ロゴの使用が許可されていることになりました。